

みんなほとけの子



(上) 鐘楼の前で
ハイ、ポーズ!!

(左) ご門徒の家に
お参り
(仲町・清松博人様宅)

※2005年サマースクールで



ようこそ

第 5 号
浄土真宗本願寺派
円光寺
〒870-0108
大分市三佐3-15-18
TEL 097-527-6916
FAX 097-527-6949

子どもたちの歓声

夏休みに入った七月二十日から二十一日にかけて、恒例のサマースクールを行いました。四十三名の小学生が参加。今年も例年にもまして非常に暑く、スタツフは少々ばて気味でしたが、子どもたちは本当に元気いっぱい。

たくさん汗をかきながら、友だちみんなと夢中になって遊びます。境内を思いっきり走り回り、本堂の中でも、子どもたちの歓声が寺じゅうに響き渡ります。子どもって本当にいいなあと思います。子どもたちの歓声が私たちみんなを元気にしてくれます。

さて、円光寺のサマースクールはいつものワンパターン。でも二十五年間培った伝統は、マンネリズムを超えた面白さがあるようです。

「次はあれやる。全部知っちゃうよ」と、小さい子が大きな新入生に先輩風を吹かせて教えています。何ともいい光景です。

その中でも円光寺ならではの企画が、わくわくナイトハイキングです。各班ごとにお寺の周辺を追跡ハイイク形式で散策します。途中、ジャンケン坂やなぞなぞ神社、宝さがし公園などのチェックポイントがあり、最後にご門徒の家にお参りに行きます。その前にスーパで仏さまへのお供えを五百円で買います。日頃お家の人がしている通りに団子や饅頭を買う班もあれば、後で自分たちがもらえることを知っていて自分たちの好物のチョコレートやスナック菓子を買う班などそれぞれです。お仏壇の前に座り班長さんの調声で恩徳讃を斉唱します。そしてすっかり暗くなった夜道をみんな一緒に、お寺へ帰ります。

一日の疲れも何のその、消灯の後も夜遅くまで子どもたちの歓声は止みません。

枝垂れ桜の花が咲きました 「サーアー行くぞ!!」

今年の春はいつまでも寒い日が続き、桜の開花が例年に比べて遅かったようです。

円光寺の境内、本堂の前に一本の枝垂れ桜の木があります。その木に今年初めてたくさんの桜の花が咲きました。

昭然前任職が元氣だった頃、「サーアー行くぞ」とご門徒さんを連れてよく小旅行に出かけたものでした。平成八年春には前任職の大学以来の親友である吉村英正さん(正念寺住職)を訪ねて宮崎の高千穂町に行きました。

その時、隣の五ヶ瀬町・浄専寺様に枝垂れ桜の花見に行つたといひます。江戸時代第九代住職が京都祇園から苗木を持ち帰って植えたものだそう、樹齢およそ二百年で宮崎県の「天然記念物」に指



五ヶ瀬町・浄専寺様の大きなしだれ桜の前で (1996年4月9日)

定された見事なものです。その桜のもとで三十名ほどの大宴会

になったそうです。その時にもらつてきた苗木を本堂の前に植えたのでした。

時期が来れば花が咲く。何か当たり前のようですが、そこには自然の恵みという大きな大きなたらしがあつてのことです。

私たちも年を重ねてまいります。その中で色々なことを経験します。

そうしたご縁に仏法聴聞させ

ていただき、ただ年を重ねるのではなく、お念仏のおはたらきによつていよいよ往生浄土の道を歩ませていただくのです。

早いものでこの十一月一日が前任職の七回忌になります。

円光寺の枝垂れ桜のもと、四月一日の月命日に、円成会の皆さんと初めて花見をしました。「サーアー行くぞ」と前任職の大きな声は今にも聞こえてきそうです。

「サーアー行くぞ、お浄土へ。みんな一緒に往こう」と。

昭然前任職七回忌法要のご案内



十一月一日 (火) 午前11時より、昭然前任職(円成院釋昭然)の七回忌法要をお勤めさせていただきます。

ご門徒の皆様には、どうぞご仏参いただき、前住を偲び共々に尊い仏縁に遇わせていただきますように。

前住が平成十一年十一月一日に往生して六年になります。

この間、一周忌法要をはじめ三回忌そして四回忌、五回忌、六回忌と毎年十一月一日の祥月命日に、ご門徒衆とご縁をもた



円光寺のしだれ桜の前で 円成会の皆さん (2005年4月1日)

せていただきました。今でも私たちのそばにいて、ご教化してくれているように思います。

院号の円成院から名前をいただいた円成会は、六十五歳以上の全てのご門徒を対象に、毎月一日の月命日に例会をもち、花まつり、降誕会、盆おどり大会、報恩講など、円光寺の行事活動の中心になつていきます。

人が多く集まること、賑やかなことが大好きな前住でした。いつものお正信偈のお勤めです。大きな声高らかにお念仏申しませう。賑やかなご法事を一緒ににお勤めいたしましょう。

お朝事「法話」より

六月に入りました。季節はこれから暑い夏に、衣替えの時節です。今年はクールビズということで、国(環境省)が呼びかけて官公庁をはじめ職場のお父さんたちの服装が変わるといいます。つまりはノーネクタイ・ノー上着ということですね。小泉首相はじめ政府の要職者も率先してということですが、何か見えて決まりが悪そうです。

ノーネクタイ・ノー上着だと体感温度が2度違い、環境にやさしいといえます。そんなことだったら早くから始めればよかったのと思えますが、なかなかネクタイをはずせない上着を脱げないというのが日本の社会のようです。

私も先日初めての会合に行くのに、迷った末にスーツにネクタイを締めて行きました。ところが行ったら、皆さんラフな格好でネクタイも上着もつけていません。「あつ」と心の中で叫びましたが、やはり礼を失してはいけないという思いがあります。こういう時はどういう格好でというマニュアルでもあったらと思いますが、これもある面

窮屈で難しいですね。

さて、私たちのお念仏は称名念仏といえます。南無阿弥陀仏と阿弥陀さまの名号を称えます。親鸞聖人はこの「称」を「はかり」と読まれています。「はかり」は物の目方をはかるのに、自身のはかりを少しもださないうつし、物の目方を正直にうつしただけです。体重計に腹を引つ込ませて乗ろうが、力を入れて乗ろうが、はかりはその人の体重をそのまま表します。

すなわち、私たちがお念仏を称える時も、私たちのはかりは一切必要ない。そのまま称えるお念仏でいいんだということとです。

それはお仏壇の前でとか、お寺の本堂でないといけないということではありません。ちゃんと座らないといけないとか、ネクタイを締めないといけないとか、上着を着ないといけないというところでもありません。阿弥陀さまの「あなたを丸ごと

と引き受けた。安心なさい。必ず救う」という、大きな大きなおはたらきの中に、私たちはお念仏申す生活をさせていたただくのです。

阿弥陀さまの深いご恩の有り難さ尊さをおもうにつけ、何時でも、何処にいても、何をしていても、仕事をしても、遊んでいても、洗濯していても、掃除をしていても、風呂の中でも、食事の間でも、ナマンダブナマンダブとお念仏申させていただきます。

こうしなければならぬという決まりはありません。そのままでいいんです。阿弥陀さまのお救いは「そのままのお救い」なんです。

(六月二日)



もつともつとで 行き詰まる

おかげさまでと 心やすらぐ

(山門掲示板より)

世々生々

郵政民営化に執念を燃やす小泉首相は、衆議院を解散して九月十一日が総選挙になりました。官から民への改革。民間でできることは民間にまかせること、国民へのサービス向上になり、お金の循環がよくなって経済は潤い、国際競争力もついて国力は高まるといえます。

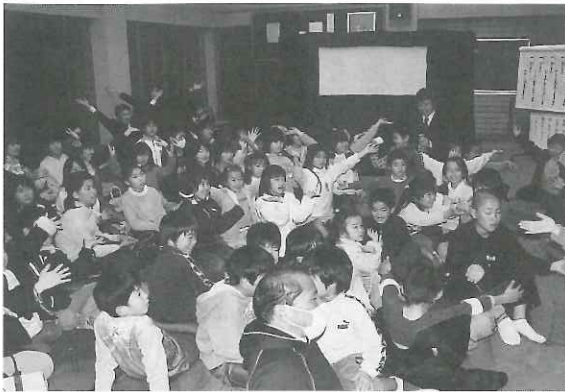
◆何かバラ色の話です。果たしてそうなのか。綺麗なバラには刺があるといえます。過疎地の郵便局がなくなり、住民の生活に負担を強いられることになるのではないかと心配されます。

◆もう随分前にテレビで、山陰地方の過疎地から「寺がなくなる」というショッキングな特別番組がありました。昭和三十年代からの高度経済成長のもと、人口が都市部に集中し、寺の存立基盤である農山村部が過疎化して、寺を支える門徒が減少している深刻な現状があります。

◆寺は聞法の道場としてご門徒が建立し、地域と共にある貴重な財産です。寺は人々の日々の暮らしの大きな依りどころです。たとえ門徒が一人になろうとも、寺をなくしてはいけません。何かと採算性や効率性が重視される現代、もつと大事なことがあることを今こそ仏法に聞かせていただきます。

(住職)

お寺へ行こう! 春の集い



(上) 影絵劇のつどい (3月11日)
(中) 春彼岸コンサート (3月21日)
(下) 花まつり寄席 (4月7日)

初参式を行いました。
五月十五日の宗祖降誕会のご縁に



お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんも一緒にお参りされました
左から 橋本歩波さん、岩崎叶恋さん、三浦拓駿さん、三浦和駿さん

お寺の総代さんには、住職をたすけお寺の護持発展のために中心的にお手伝いいたただく大きな務めがあります。大きな行事には何度も寄り合いをし、ご門徒皆さんの意見をよく汲み取って円滑な運営をはかります。

この四月で、長年総代としてお世話いただいた岩崎善彦さん(沖)と岩崎義人さん(沖)が辞められました。前住職の頃からのことで、善彦さんは総代長として義人さん共々、前住職の門徒

総代会

シリーズ

『同行さん』⑤

お浄土への人生



新旧総代会の皆さん
左から 岩崎義人前総代、橋本総代、岩崎善彦前総代、岩崎勉総代、住職、大津総代、清松総代長

双子ちゃんも初参り

一年ぶりに ● 盆おどり大会 ●



(左) 囃子方の「みどりの会」の皆さん

(右) を踊たぐんでしや困り

八月十二日に第七回盆おどり大会を行いました。昨年は台風で中止。二年ぶりに踊りの輪ができました。

あ と が き

今年の夏は本当に暑かった。汗びっしょりのお盆参りでした。クーラーのある仏間で冷房がピンピン効いていて、その時は本当にいいんですが、外に出るとこれが灼熱地獄の様。寒暑の間を行ったり来たりで、ぐったりと疲労度が年々高くなります。「一番暑いこの時期に何でお盆や」とぼやきたくなります。「暑いからこそお盆やないか」との声。「はい、そうですね」